

# 大将軍小だより 特別号

～全国学力・学習状況調査から～

平成 27 年 11 月 11 日

京都市立大将軍小学校

校長 西村 彰高

## 平成 27 年度全国学力・学習状況調査の結果

4 月 21 日に、本校 6 年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、結果がまとめました。本調査は、国語と数学、理科の 3 教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子ども達の状況をお伝えします。

### 総合結果(国語・数学・理科)

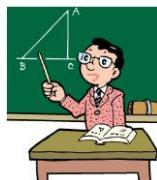
国語 A, B と数学 A, B, 理科の 3 教科全てにわたり、全国平均を 12 ポイント以上上回る結果となりました。国語 A・数学 A ともに高い正答率を出しています。

### 国語科より

国語 A (知識) では新聞のコラムを読んで、筆者が引用している言葉を抜き出したり、国語 B (活用) ではインタビューの様子の内容をまとめて記事を書いたりする等、記述式の解答に誤答が多く見られました。話すこと・聞くこと、読むことに比べると、書くことにやや課題が見られますが、概ね全国平均を上回っています。

### 算数科より

数学 A (知識) においては、おおむね大きな課題は見られないものの、数学 B (活用) では、概数の見積もりを活用して、キャップの集め方を説明する、分割された二つの図形の面積が等しくなる理由を説明する、二組の道のりが等しくなる理由を図を使って説明する、といった記述式の正答率が低い結果となっています。



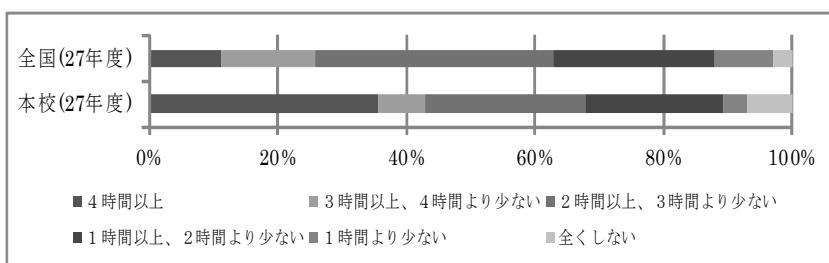
### 理科より

理科では、メスシリンダーで一定量を量りとったり、顕微鏡の適切な操作方法を選択したりするといった観察・実験の技能にかかわる問題に課題が見られました。また、グラフから読み取ったことを考察し、その内容を記述する問題において正答率が低い結果となりました。



### 児童質問紙調査から①

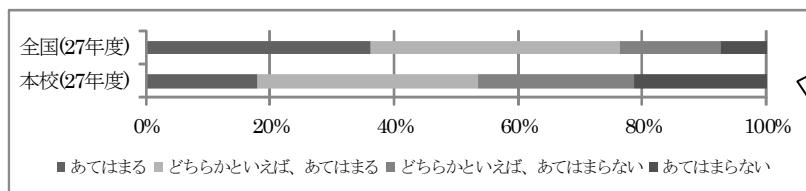
以下の図は、学校の授業時間以外に普段 (月～金曜日)、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか (学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む) の調査結果です。



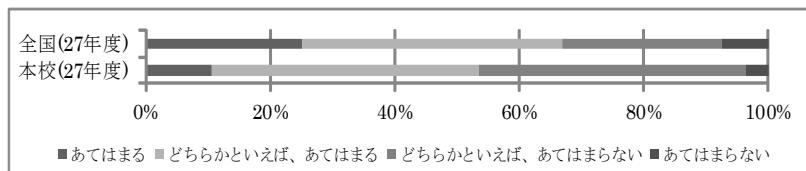
図は平日の結果ですが、土日休日も同様の結果が見られました。家庭学習に励んでいる子どもが多くいます。一般的に、家庭での学習時間が長いほど、正答率は高くなります。

## 児童質問紙調査から②

下の図は、「自分に良いところがあると思いますか」「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の調査結果です。



全国平均に比べて、自分の良いところがあると思っている児童は少ないと言えます。自尊感情が高い方が自信をもっておこなうことができ、成果も見られます。また、自分の意見をしっかりともって交流する事が大切です。交流によって、考え方が多面的・多角的になっていきます。



## 全体を通して本校の成果と課題

本校では「一人一人の子どもを徹底的に大切にする」という方針のもと、学力向上の取組に関しては、基礎・基本の定着を図ること、表現力をつけることをめざして、全国調査やジョイントプログラム等の学力情報も活用しながら、日々の指導方法の改善や個に合った指導に努めています。

子どもたちには、1年生の時から自らのテスト結果等の成績を振り返らせ、うまくできなかつた問題についてテストをやり直したり、補充プリントで繰り返し学習したりしています。また、家庭の協力を得て、児童質問紙の調査結果①で示したように、しっかりととした家庭学習ができていることで、基礎・基本の定着が図られているという結果が得られたのではないかと思います。

また、学力とともに規範意識や自尊感情についても明らかになりました。児童質問紙の調査結果②において、自尊感情が全国に比べて低いということがわかりました。ここを大きな課題ととらえています。

宿題については、各学年の担任が範囲や量を調整するとともに、児童の理解度に応じて毎日声をかけています。また、本校では生活習慣と学習習慣を維持する目的で、月に2回程度土曜学習の開催の他、放課後まなび教室にて学習できる場を設けています。

児童達にはこれまでにも指導を重ねてますが、土曜・日曜・休日も含めた家庭での学習時間を増やしていくことが、これから自分の将来設計、言い換えれば進路実現につながっていきます。意識して30分でも1時間でも増やして家庭学習に取り組めるようにしていきたいと考えています。

## 保護者の皆様へ

全国調査は子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性を更に伸ばしたり、課題を解決したりしていくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、また順位を競うものではありません。

学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねによって定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。今回の本校の結果を見ると、これまでの調査と比べて、学力は着実に伸びてきており、ご家庭での子どもに対する積極的な関わりや指導・支援の成果が表れています。引き続き、本校の課題解決に向けて、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いいたします。